第３号様式

京都府教育委員会教育長　様

令和６年３月５日

コミュニティ名：中・高をつなぐ国語科実践力向上コミュニティ
代表者所属名：京都府立北嵯峨高等学校
代表者職・氏名：教諭　・　廣瀬悠起

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

１　コミュニティ名

中・高をつなぐ国語科実践力向上コミュニティ

２　研究テーマ

指導と評価の一体化を踏まえた問題解決型の単元構想についての研究 ～主体的・対話的で深い学びが展開される授業へ～

３　研究の目的

①国語科における学習指導要領並びに新しい評価の在り方を具体化した単元構想・実践に取り組み、指導力の向上を図る。 ②他校種の実践から学び、授業実践力の向上に活かす。

４　研究の成果と課題

【成果】

○中学校は高等学校より学習指導要領が先行実施。高校の教員は中学校で実施された授業から言語活動のアイデアを得たり、評価の視点を学んだりすることができた。

○中学校から高等学校への学校段階間の接続を意識して、教材や指導事項、学習内容を知ることで系統性を踏まえた指導が可能になり、付けたい力を明確にした指導を考えることができた。

○【授業を計画する段階で持ち寄る→授業→反省・改善】（PDCAサイクル）の流れがあるので、交流した実践をよりよく改善することを共有し、それぞれが次年度以降、自分の実践に活かすことができる。

○学会への参加も取り入れながら、先進的な実践に触れたり、意見交流をしたりすることで教材を深く捉えることができ、新たな教材開発につなげることができた。例えば文学の「走れメロス」から「こころ」を言語活動でつなげて単元構想が成り立つなど、中・高のコミュニティの効果を実感している。

○国語でのICTの活用事例を学ぶことができた。（センター研修の受講）

○3領域の指導について、特に高等学校において実践が薄い「話すこと・聞くこと」について、単元の練り直し等に取り組むことができた。（※廣瀬教諭の実践）

【課題】

言語活動が、身に付けさせたい資質・能力を発揮できるものとなっていないことや、学習指導要領で示されている学年に応じた資質・能力になっていないこと。また、単元のサイズ感と資質・能力の育成の見通しの不一致などについて実践を通じて感じている。引き続き学びが必要。

【今後】

〇資質・能力を身に付けるのに効果的な言語活動の開発

〇「指導と評価の一体化」を一層推し進めるための定期テストの検討、ルーブリックについての理解、「Bの姿」の設定と生徒のアウトプットの妥当性などの検討

上記の2本の柱を軸に、具体的な実践の構想や振り返りを基に、一層メンバーの実践力を磨いていく必要を感じている。また、学校種を超えて実践から学ぶことを特徴としているため、系統性を重視し、単元構想の精度を高めていく必要がある。

5　研究成果の波及方法

〇評価のポイントやルーブリックなどを教員間で共有。

〇地域の研究会（教育局のプログラムなど）で実践を公開。（大西教諭、横山教諭）

〇府総合教育センターのHPにて動画コンテンツ「国語科『聞く力』の指導について～高等学校実践編～」として紹介予定。

6　研究（活動）実績

年月日	研究（活動）内容（具体的に記入）	活動場所
４月16日	年間活動予定の確認・顔合わせ（zoomで）	各自宅等
６月４日	「話すこと・聞くこと」の学校段階間の接続を踏まえた単元づくり	センター
８月10,11日	日本国語教育学会へ参加。それぞれの課題意識に合わせて分科会に参加。→交流	筑波大学附属小学校 センター
８月21日	大西教諭による「話すこと」の実践報告。 日本国語教育学会の参加報告。単元構想の検討	北嵯峨高等学校
８月30日 ９月５，６日	北嵯峨高等学校廣瀬教諭による１年生「現代の国語」【話すこと】授業公開	センター
10月８日	廣瀬教諭による「話すこと」の実践報告。	網野中学校
11月17日	京都府中学校国語教育研究発表大会（網野中学校）高校籍の教員も参加し、「おくの細道」の分科会に参加。	センター
12月16日	京都府中学校国語教育研究発表会の参加報告。他府県の「話すこと」の事例報告。評価方法の検討。	センター
２月３日	横山教諭による「走れメロス」実践報告。廣瀬教諭による提案スピーチの単元構想の提案。ICTの活用についての提案。	センター
３月17日	１年のまとめと今後の展望	